

盲導犬のルーツを探る ③

盲導犬のルーツ

人間と犬の長い共存の歴史において、犬が視覚障がい者を誘導し、歩行の援助をしていたことは人々に良く知られていた事実であった。

ポンペイの壁画（西暦19年）

イタリア南部、ベスピオス火山南麓に紀元前6世紀から発達した古代都市ポンペイの壁画に視覚障がいのある人と思われる男性が犬と一緒に市場を歩く場面が描かれていることが、79年の発掘によって発見された。

フランスの宣教師（6世紀）

6世紀フランスでは、盲目の宣教師ヘルブが白い小型犬に導かれ、ブルターニュ地方を宣教して歩いたという記録が残っている。

中国の絵画（13世紀）

町の中を犬を連れて歩いている視覚障がい者らしき人が描かれている。

ヨーロッパの絵画（15世紀以後）

レンブラントやゲインズボローなどの画家が犬を連れて歩く視覚障がい者の絵を数多く残す。

上記の事実は、盲導犬の始まりと言える。しかし、これらは視覚障がいのある人が受動的に犬に引かれて歩く、というものであり、それらの犬にガイドするための何らかの訓練がなされたとは考え難い。